

— Pick Up! —

「広報なかの」が 長野県市町村広報コンクールW受賞

問 庶務課 ☎ (22) 2111 (内線212)



▶ 広報誌 総合1位 「広報なかの 10月号」

▶ 組み写真の部 最優秀賞 「広報なかの 11月号表紙」

多くの皆様のご協力のおかげで、受賞することができました。今後も市民の皆様に親しまれる広報誌が届けられるよう頑張りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

※ 広報なかのバックナンバーは市公式ホームページでご覧いただけます。



人口の動き

面積：112.18km²

人口：42,377人 (－48)

男：20,520人 (－16)

女：21,857人 (－32)

世帯数：15,826戸 (－1)

【2020年2月1日現在】

() は前月比。

2015年国勢調査を基に推計。



中野市公式
ホームページ



中野市役所広報
facebook



中野市議会

ページ

03 キラリ★中野のチカラ

特集

04 信州なかのギャラリー
フォトコンテスト

09 信州なかの日和 / 池田市長のわくわくレポート

10 国民年金特集

12 区長の紹介

13 統合準備委員会だより

14 活き生き！健康メモ / 保健だより

15 市民リレー元気の輪 / 行ってみよう！やってみよう！シニア情報

16 子育て案内

17 子育て支援センター行事予定 / わが家のアイドル

18 まちかどトピックス

20 暮らしの情報掲示板

26 交差点

28 文化なかの（公民館報）

30 図書館情報

31 新型コロナウイルス感染症について

32 夢 / 広報クイズ

今月の表紙



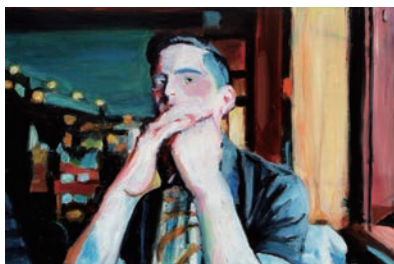
中野市公式Instagramアカウント「shinshu_nakano_gallery」（信州なかのギャラリー）では、中野市の魅力を全国に発信するため、昨年9月から今年1月にかけて、フォトコンテストを開催しました。今回の特集では、フォトコンテストの結果発表と市のSNSを活用した情報発信活動をご紹介します。



「再現」ではなく、
何かが「変化していくこと」。
それが、私にとっての写真。

-Profile- たかぎ こずえ

松本市生まれ。小学校入学のとき、中野市に移り住む。高校1年生の時に友人に誘われ、写真部に入ったことがきっかけで写真の道へ。東京工芸大学芸術学部写真学科卒業。2015-16年に公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員としてアメリカポートランド市に滞在。EPSON Color Imaging Contest 準グランプリ受賞。キャノン写真新世紀グランプリ受賞、森山大道賞受賞。VOCA展 2009 府中市美術館賞受賞。第35回木村伊兵衛写真賞受賞。第15回信毎選賞受賞。



▲『プレリュード』。高木さん本人が制作した油絵。
©Cozue Takagi Courtesy of TARO NASU



▲『プレリュード』。高木さん本人が制作した木版画。
©Cozue Takagi Courtesy of TARO NASU

写真家

高木 こずえ (西江部)



cozue takagi HP ▲

本 号の特集「信州なかのギャラリーフォトコンテスト」の最終審査員を務めた高木こずえさん。「写真は言葉のようなもので、コミュニケーションだったたり、記録だったたり、撮り手によってさまざまなものになります。今回のコンテストでは、私が普段写真を撮っている中で、フォーカスしないものが見られて、楽しかったです」と審査を振り返る。

2018年開催の「シンビズム2」北信会場の須坂版画美術館で高木さんが披露した作品『プレリュード』。この作品は、さまざまな手法で作品を制作してきた中で、導いた写真表現の答えという。

「アメリカに滞在していたときにネガフィルムで撮ったスナップ写真を油絵で模写し、それをデジタルカメラで撮影。それらをもとに木版画を制作したものが『プレリュード』。私の中で現実にある物質は『実』、ネガフィルムや版木は『潜』、画像データは『虚』と言い換えていて、この3つを巡ることが私の写真に対する向き合い方と思い至りました」。

木版画は初めての挑戦だったと言う高木さん。作品の題材となるものが長野県には多く、また、それに携わり、協力してくれる芸術家も中野市近辺にいた。次の題材は模索中と話す高木さんは最後に、「私にとっての写真というものが『プレリュード』の制作から導き出せました。その答えができたときに次の作品はどうなるのか。また、新たなスタートラインに立った気がします」と話してくれた。